

特集「社会貢献」

(社)日本技術士会北海道支部
北海道技術士センター
広報委員会

「技術士の社会的知名度が低い」などという意見を、技術士会の会合などでよく耳にすることがあります。たしかに技術士は職業資格ではないため、他の資格から見て認知度が低いことは認めざるを得ませんが、この責任の一因は私たち技術士にもあるのではないのでしょうか。

昭和40年に日本技術士会北海道支部・北海道技術士センターが設立されてから40年近い歳月が流れましたが、その間、私たち技術士は対外的に何をしてきたのでしょうか。もちろん積極的に取り組んでき

た仲間も多いことを知っていますが、孤高を求めるだけに留まってしまった方も多かったのではないのでしょうか。

今までも本誌では特集「これからの技術士像」など地域社会に密着し、入り込み、自立に貢献するための取り組みを紹介しましたが、今年9月に、第31回技術士全国大会が札幌で開催されるにあたり、このような背景を踏まえて大会テーマが「社会貢献」に決定されました。これは、これからの私たちの方向を示す羅針盤になるのではないのでしょうか。

大会テーマ「社会貢献」

—技術士は何ができるか、何をすべきか—

「地方の時代」と言われて久しいけれど本当に地方の時代が来ただろうか

ここに高度な知識と豊かな経験を持つ技術士がいる

いろいろな分野で活動している

けれど技術士は社会に十分認知された存在だろうか

全国大会パンフレットより抜粋

大会は5つの分科会からなり、活発な討論を予定していますが、ここに各分科会幹事の方から分科会の紹介とその概要を頂いたので、このテーマについて皆さんと一緒に考えてみてはいかがでしょうか。

なお、技術士全国大会は昭和49年8月に愛知県犬山市で第1回が開催されて以来今年の札幌大会で

31回を数え、そのうち札幌では昭和52年の第4回、昭和62年の第14回、平成7年の第22次に次いで4回目の開催となります。年々参加者が増えてきており、今年の大会も多くの方々に参加を頂いて成功裏に終了することを祈念して、特集を組むに当たってのご案内とします。